



交換留学を通して学んだこと

平成 28 年 10 月～平成 29 年 3 月

北海道教育大学釧路校授業開発コース 留学

喜屋武 姫香

(琉球大学教育学部教育実践学専修)

私がこの交換留学の制度を知ったのは高校生のときである。私は高校 2 年生のときに行った修学旅行先の北海道で、そこで目にした景色に心を奪われ、いつかここに住んでみたいと思っていた。そんな矢先この制度を見つけた。琉球大学に合格したら必ず参加しようと思っていた。そして私は去年の 4 月に留学することが決定した。心の底から嬉しかった。前期は後期のためにいろいろ頑張りすぎて忙しかった。あつという間だった。そしてとうとう沖縄から飛び立つ日がやってきた。

北海道での始めの一週間はとても長かった。まだ 1 日しかたっていないと思っていた。しかし、それもつかの間のことで、気づいたらもう一週間たっていたになり、1 ヶ月がたった。北海道に来てまず驚いたことはやはりスケールの大きさだ。標識の〇〇まで直線 150 km の文字。直線の道路の先が見えないほどまっすぐ続いている。そして広い大地に牛や馬が放牧されている光景に思わず声を上げる。それから雲ひとつない大空にも感動せずにはいられない。北海道で目にする何もかもが新鮮で、私たちの心を奪い感動をくれた。

後期が始まり、たくさんの人たちとの出会いが始まった。私は 1 専の授業開発コース、通称方法に入った。方法は最初から活動が盛んだった。まず酪農体験に行った。始めて現場を見させていただき、マイペース酪農について学ばせていただいた。目の前で牛たちを見て生き物を相手に仕事をする大変さを感じた。そしてたたら製鉄。附属小学校でたたらを子ども達と一緒にいった。準備から携わらせていただき、すすで真っ黒になりながらも、子どもたちと方法のみんなで鉄をつくるために頑張った。みごと鉄ができていたときの感動と歓声を今でも覚えている。その次の日は知床研修だった。知床に赴き、北海道の自然を肌で感じ、学んだ。そこでもまた新たな出会いが生まれた。氷点下の中完全防寒をし、テントで夜を明かすことはもう一生ないのかもしれない。そして大学の講義がない時間に、各地の小学校や中学校にお邪魔する機会もあった。北海道はほとんどがへき地教育なのだということを私は北海道に来てから知った。複式授業では先生の授業の準備のすごさや工夫を見させていただいた。それから、大学祭はさすが教育大学といったところで、子どもたちがたくさん訪れてくれた。また、釧路校は琉球大学と比べると小規模なので、他の研究室のブースを全部まわられたのはよかった。出店で出されている食べ物も北海道ならではのものもおもしろかった。また、方法ではサイエンス関係の活動も多く参加させてもらった。旭川まで行ってパイプオルガンをやったり、釧路の遊学館で子どもたちとのづくりも行った。そして北海道に慣れてきた 11 月には授業をする機会もあった。アフタースクールという形で授業を行うために羅臼まで足を運んだ。私としては散々な授業になってしまったが、みんなそれぞれ自分の授業に向けて準備を夜遅くまで行い、お互い助言しあい、方法という学科のすごさを改めて感じた 3 日間であった。

大学の講義は北海道ならではのものもあった。そのうちのひとつが自然体験教育である。ネイパル厚岸で、野外教育についてさまざまな活動を行いながら学んだ。2 専のみんなと仲良くなれたとてもいい機会であった。もしかすると夜にやったバレーが一番楽しかったのかもしれない。

そして12月に入り方法の秋合宿があった。10月から始まったゼミの発表である。その日までの準備は正直気が滅入った。周りも大変そうだった。ゼミというのはこんなにも頭を使うものなのかと痛感した。しかし、大変なのはみんなその分真剣に取り組んでいる証拠で、発表を聞いている中で、みんな熱い心をもってやってきたのだなということが伝わってきた。自分も負けてられないと思った。秋合宿の翌週には月寒フリースクールがあった。私自身フリースクールに行くのは初めての体験だった。しかも1週間も子どもたちと一緒に過ごせるのは貴重な時間だった。始めは長いと思っていたが、やはりあっという間に終わってしまった。私達琉大生は食育を担当することになり、沖縄料理を子ども達と一緒に作った。いろいろハプニングはあったが、なんとか料理が完成し、みんなで食べることができたのはいい思い出である。そして、年末にはかまくらを寮の近くの鶴ヶ岱公園で作った。もちろんかまくらを作る体験は初めてだった。かまくらを作るのがこんなに重労働だとは知らなかった。雪を積み上げる作業は大変だったが、穴を掘っていく作業はコツを掴むと楽しく行うことができた。10人ほど入れるかまくらが完成した。しかし天井を削りすぎて屋根が崩落してしまったが、それもまたいい思い出である。

北海道で新しい年を迎え、1月まず始めに初ウィンタースポーツをした。トマムでボード合宿を行った。始めはたくさん転んだが、数時間もすると普通に滑れるようになった。3日目にはS字もマスターし、心から楽しむことができた。しかしその引き換えに体中に打撲を負い、全身筋肉痛になった。その翌週にはサイエンスショーがあった。10月から準備をしていたものである。2日間に渡って行われた。私は正直このサイエンスショーが心の重荷でしかなかったのだが、いろんな方にアドバイスをもらい、またパートナーの先輩に助けをもらい、なんとかショーをやり遂げることができた。正直に言うと悔しい部分のほうが多かったのだが、その分たくさん学びを得られたので、これからの大学生や将来教師になったときに活かしていけたらいいと思う。

2月は旅行ラッシュだった。学科、ゼミ、琉大生、学科の同学年でなどたくさんの人達と、阿寒や網走、小樽といういろんな場所で楽しい思い出をつくることができた。その分一番出費も大きかったが、楽しい思い出に勝るものなどない。今は今しかないのだから。

そして怒涛の3月がやってきた。別れが着々と近づく中、一日も無駄にしまいとこれでもかというほどたくさんの人と会い、共に時間を過ごした。弟子屈でそば打ち体験をしたり、川へ探検に行った帰りに流水や鹿の群れを見たり、念願の旭山動物園を訪れたり、悔いも残らないほど様々な体験をした。そしていよいよ別れのときがやってきた。たくさんの人が見送りに来てくれた。泣いてくれている人もいた。

たった半年間だったけど、たった半年とは思えないほどのたくさんの思い出が濃縮されている。自分ってこんなに行動力があったのか、こんなに様々な人たちと関わることができるのか、たくさんの方に気づかされた。そして沖縄で過ごしてきた大学1年半をとってももったいなく感じた。もっと自分から行動を起こさなければ、冒険しなければ、素敵な出会いも奇跡のような瞬間もたくさんの学びも得られない。この北海道交換留学に参加することができて本当に良かった。

もしこの文章を読んでいて交換留学をしようかどうか迷っている人がいたらぜひ行くべきだ。お金はバイトで稼げばいい。どうしても無理なら親に頼ってあとから返せばいい。大事な今は今だ。この瞬間はお金で買えない尊いものなのだから。

私は北海道で過ごした半年間を糧に、残りの大学生活をさらに実りあるものにしたいと思う。